HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	センター長挨拶
Author(s)	町野, 和夫
Citation	地域経済経営ネットワーク研究センター年報, 1, 5-6
Issue Date	2012-03-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/48836
Type	other
File Information	REBN_1_005.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

センター長　挨拶

北海道大学大学院経済学研究科　町野　和夫

本日は北海道大学大学院経済学研究科『地域経済経営ネットワーク研究センター』の設立シンポジウムにご参加いただき誠にありがとうございます。

とくに講師の先生方にはお忙しい中お越しいただき，ありがとうございます。また，佐伯総長，それから上野同窓会長には心強いお言葉をいただきありがとうございました。

では，講師の先生方をご紹介する前に，簡単にご挨拶を申し上げたいと思います。

この『地域経済経営ネットワーク研究センター』は，今お二人からもお話がありましたが，経済学研究科の長年の懸案事項でありました研究科の共同研究の支援体制の一つとして，ようやく実現したものであります。

本センターの名称は，先ほど同窓会長から私より雄弁にご説明いただきましたが，北海道という地域に根ざした学問的貢献や情報発信を今まで以上に強く意識するということ，それから今後の経済や経営の仕組みが，自律分散型のネットワークという視点から考えることが重要ではないかということ，この二つの考えを表わしたものになっております。

自律分散型ネットワークという言葉はわかりにくいかもしれませんが，それとは反対の集権的なネットワークの問題点を指摘することで少しイメージを持っていただけるのではいかと思います。今回の大震災・原発事故などで発電所の方々とか，消火活動に当たった方々がご活躍されたこと，あるいは製造業のサプライチェーンとか通信，交通，流通のネットワークがスピードを持って回復してきたことに比べて，巨大な官僚的意思決定体制の意思決定機構が機能しなかったことは明らかだと思います。そういう集権的ネットワークは閉鎖的になりがちで，環境変化に対応しにくく，リスクに対してもぜい弱な側面があります。

これに対して自律分散型ネットワークは，ネットワーク個々の構成要素あるいはメンバーの自律性を重視するということです。例えば，電力で言えば，供給側では個々の発電所，需要側では家庭や企業，製造業で言えば工場などの「現場」，大きなサプライチェーンで言えば個々のメンバーである企業，地域経済で言えば，個々の市町村，あるいはもっと個々の消費者や生産者，住民，といった一人一人の個人と考えることもできると思いますが，そうしたネットワークの一つ一つの点，先ほどの同窓会長の言葉をお借りすると結び目が，自主的に行動し，しかもネットワーク全体では相互に補完し合うというのが私たちの考えている自律分散型ネットワークのイメージです。今回の大震災でも，自律分散型ネットワークであると思われる製造業などでは早い立ち直りを見せた，ということが，一つの証拠として提示できると思います。

本研究センター自体は，まだ生まれたての組織で今のところ理念先行にもみえるかもしれませんが，

設立のコアメンバーは，例えば経済学の立場から地域通貨を研究している者，経営学の立場から政府と企業とNPOの協働，コラボレーションについて研究をしている者，会計学の立場から国･地方公共団体･非営利組織などのあり方を研究している者など，多彩な研究者が揃っております。また，地域というのはローカルという意味だけでなく，リージョナルという意味もあり，世界のどの地域でも自律分散型ネットワークという考え方は当てはまると思うのですが，幸いわが経済学研究科には海外の様々な地域の専門家もおりますし，国際的に活動している研究者も多いので，そうした専門家の知見も活かしてもらい，本センターを強化していこうと思っております。

今回のシンポジウム以外でも，今同時に研究会シリーズを進めております。最初のテーマは今年はやはりこの問題を考えたいということで「3.11後のエネルギー政策」と題して2週間ほど前に第1回を始めたところですが，本研究科の環境経済学，産業組織論，経済思想，計量経済学，都市計画といった分野の研究者に話をしてもらい議論する予定です。また電力会社勤務の研究者や環境NPOを立ち上げた研究者も講師としてお招きする予定で，5か月で計9回の研究会の開催を予定しております。

とは言いましても，まだ，なかなか地域や社会ためにお役には立てるところまでは行っておりません。今後も，経済学研究科の研究者の力を結集して，今日お招きした講師の方々や，北大の他の研究組織，それから学外の研究組織，教育組織の方々にも教えを請い，あるいは協力を仰ぎながら，研究・教育の質を高め成長できるよう努力していきたいと思っております。どうぞご支援のほど，よろしくお願い致します。